Al₂O₃/SiO₂ 界面のダイポールが誘起するチャネル内の静電界 Electrostatic filed in channel induced by the dipole layer at Al₂O₃/SiO₂ interface 早大理エ¹,早大ナノ機構²,明大理エ³,兵庫県立大⁴, JST-CREST⁵,

[•]橋口誠広¹, 栗山亮¹, 高橋隆介¹, 小椋厚志^{3,5},佐藤真一^{4,5}, 渡邊孝信^{1,2,5}

Waseda Univ.¹, Waseda-INN², Meiji Univ³, University of Hyogo⁴, JST-CREST⁵,

^OM. Hashiguchi¹, R. Kuriyama¹, R. Takahashi¹, A. Ogura^{3,5},

S. Satoh^{4,5}, and T. Watanabe^{1,2,5}

E-mail: hashiguchi@watanabe.nano.waseda.ac.jp

[研究背景]シリコン系太陽電池の更なる低コスト化のためシリコンウエハの薄層化が進められており、比表面積の増大とともに表面再結合の抑制が重要な課題となっている。パッシベーション膜としては熱酸化膜(SiO₂)が最も優れているが、Al₂O₃ を堆積させても優れたパッシベーション効果があることが知られている[1,2]。Al₂O₃ 膜と界面 SiO₂層の界面付近に生じる負の固定電荷が表面再結合の抑制に寄与していると考えられているが、その詳細は不明である。一方、high-k/メタルゲートを用いる FET では、しきい値シフトを引き起こす要因として high-k/SiO₂ 界面のダイポールの広く存在が知られており、シリコン系太陽電池における Al₂O₃ 膜の優れたパッシベーション効果と関係があるのではないかと筆者らは考えている。そこで本研究では、Al₂O₃/SiO₂ 界面のダイポール層が界面近傍のキャリアにどのような影響を及ぼすか、原子論的シミュレーションを用いて検討した。

[シミュレーション手法] Al2O3/SiO2 界面モデルを分子動力学シミュレーションで作成し、 界面における O イオンの移動により生じたダイポール層[3]によって、Si 基板内にどの程度 の静電界が生じるか計算した。理想的な電気二重層の外側では電界は生じないことになっ ているが、Al2O3/SiO2 界面に生じるダイポールは離散的に分布しているため、その近傍では 電界が浸み出していると考えられる。図1に、本研究で作成した SiO2/Al2O3 積層構造を示す。 モデルの大きさは 20Å×40Å×12Åで、x-y 方向に 2 次元周期境界条件を設けた。系全体で 電荷中性が保たれているが、SiO2/Al2O3 界面で負の電荷を帯びた O イオンが SiO2 側に移動 しダイポールが形成されている。この絶縁膜の下の Si 基板内の電子に加わる Coulomb 力の z 方向成分を各点で計算した。

[結果と考察]図2は、Si/SiO2から深さ4Åの位置のCoulomb力の面内分布を示す。青色は基板奥側に向いた力を示しており、全体として絶縁膜から反発力を受けていることがわかる。 図3は、Coulomb反発力の深さ方向のプロファイルを示している。ダイポール層から受ける 反発力は、図2中に黒丸で示した9点の平均値である。比較対象としてAl2O3/SiO2界面に 置いた負の素電荷から受けるCoulomb反発力も示している。図3より、1個の固定電荷か ら生じる力より大きな反発力がダイポール層から生じていることが分かる。この結果は、 固定電荷でなくとも、high-k/SiO2界面に生じるダイポールで表面再結合の抑制を説明でき ることを示している。

[謝辞] 本研究は JST-CREST の支援を受けて実施された。

[参考文献] [1] H. Lee et al., APL 100, 143901 (2012). [2]K.Arafune et al., JJAP 51, 04DP06 (2012). [3]K. Kita et al., APL 94, 132902 (2009).

